特集

「シルクおかや」新次元宣言！

元祖岡谷ブランドの進化と深化をめざして

岡谷で生産された生糸が、No.1のジャパンブランドとして世界に輝きを放った時代がありました。製糸隆盛は技術を育み、まちを発展させ、日本の近代化を支えて、先進的なものづくりの原動力となりました。

生糸、そして製糸に関わる人々が紡いできた歴史や誇り、受け継がれてきた経験とその蓄積。岡谷ならではのこうした資産を活用し、これからわたしたちがめざすもの…それはシルク文化の再構築。これまでにない価値の創造に向けて、新たな挑戦が始まります。「伝統×技術×可能性」が生み出す光＝ブランド力を信じて、さあ未来へ。

旧農業生物資源研究所が市の施設として生まれ変わります。

63年間にわたり市内で、まゆと生糸の研究、繰糸技術、機械の革新、シルクテクノロジーの応用などを続けていた独立行政法人農業生物資源研究所（かつての蚕糸試験場）。ここでは、近代化産業遺産認定を受けた多条繰糸機をはじめとする貴重な機械類が、昨年度まで実際に使われていました。研究所の閉所に伴い、施設や現役の機械を国から無償で譲り受けた市では、ここを整備し、新病院建設用地内にある市立岡谷蚕糸博物館の移転先とする計画のもと「旧農業生物資源研究所活用構想（案）」をまとめています。

現状の旧農業生物資源研究所（管理棟）

蚕糸が育んだ文化と歴史、そして先人の遺業を伝承するとともに、新たなシルク文化を生み出す新施設は、平成26年度のオープンをめざして、これから、より付加価値の高い展示方法や岡谷ブランド発信拠点としてのあり方などの具体的な検討を進めていきます。

むすぶ

新施設には、次の既存5施設を集約。「収集・保管」「展示・公開」「調査・研究」「学習・体験」「広報・普及」「岡谷ブランドの創造」などの機能を集中し、コンビネーション・パワーを発揮。伝統×技術×可能性で、新たな価値の創造をめざします。

❶市立岡谷蚕糸博物館

県有形民俗文化財、近代化産業遺産に続いて機械遺産の認定も受けた蚕糸・製糸に関する機械類のほか、所蔵する貴重な資料の保管・展示。見学、学習活動、情報発信。

❷旧農業生物資源研究所

所有していた製糸機械類の保守・保管・展示と調査・研究成果の応用。

❸㈱宮坂製糸所

諏訪式や上州式など歴史的な座繰り技術から、より近代化した繰糸工程まで、生糸の製造過程を直に見学。民間力の導入。

❹岡谷絹工房

機織り体験、染色体験、絹製品づくりなどによる文化の継承と普及、学習活動。

❺まゆちゃん工房

まゆアート体験などを通じ、まゆと生糸に親しむ啓発活動。

問合せ●ブランド推進室（内線1491）

ひもとく

岡谷でなければできない展示、日本に1つしかない貴重な博物館として知られている蚕糸博物館の機能を進化させ、市民はじめ全国からの来訪者に、蚕糸・製糸業の歴史、岡谷が日本の近代化に果たした役割を紹介します。

岡谷の歴史

殖産興業に取り組む明治政府が、官営富岡製糸場を創業した後、岡谷では「諏訪式」と呼ばれる繰糸機を誕生させました。生糸の品質を向上させる「共同揚返し」という画期的な方法の開発により、明治中期には「信州上一番」という上級格の生糸の産地としてその名を高め、一気に躍進を始めました。明治40年代には、日本が世界一の生糸生産国となり、岡谷はその発展の中核として国家の近代化をけん引。「シルクおかや」の製糸こそが、ものづくり日本の土台を形成したといっても過言ではありません。

製糸業全盛期のようす

諏訪式繰糸機

岡谷のまちは、製糸業の飛躍的な伸びに合わせて発展。人口が増加し、電話、病院、水道、電気、ガスなどのライフラインが、近代化する製糸工場からいち早く整備されるとともに、経営者の努力もあって、従業員の労働環境の改善や、福利厚生の充実が図られました。明治40年に完成した旧林家住宅は、製糸全盛時代の製糸家のくらしをしのばせてくれます。本格的な洋風建築を先取りした、山一林組や片倉組の製糸事務所などは、建築時の姿を今もとどめ、保存・活用されています。また昭和11年に市制が施行された時、製糸家尾澤福太郎から寄贈された旧岡谷市役所庁舎も、当時の発展を伝える貴重な建造物です。

明治以来の製糸近代化の精神を伝える産業遺産と技術が今なお生きているまち、それが岡谷です。

旧山一林組製糸事務所

旧林家住宅 洋間

市立岡谷蚕糸博物館

日中戦争以降の混乱期に蚕糸業関連資料の収集・展示を行うため、昭和20年より「蚕糸記念館」を開館、その後、片倉懐古館より寄贈された資料も合わせ、昭和39年、製糸業界をはじめとする関係者からの寄付により、新たに「市立岡谷蚕糸博物館」が開館しました。

蚕種（蚕の卵）製造から養蚕、製糸までに使われていたさまざまな器具、機械類や絹製品、製糸経営史料、工女の生活やまちの歴史などをしのぶ写真など約3万点を収蔵、展示（一部）しています。そのうち442点は昭和41年に県宝（県有形民俗文化財）、平成19年には経済産業省の近代化産業遺産群に認定され、昨年は、一般社団法人日本機械学会により「日本の機械技術発展の歴史で重要なもの」として、繰糸機群が「機械遺産」の認定を受けました。その評価により、ここへきて一段と関心と注目を集めています。

つなげる

ミュージアム、ワークショップ、ギャラリーの3ゾーンで構成し、展示に体験要素を加えた新たなスタイルで「何かが生み出される」という期待と実感をアップ。現代に生き続ける蚕糸・製糸の生産工程を実際に備え、人の活力やネットワークをアクティブにすることで、シルクの魅力を現在進行形で深化。岡谷ブランドのコアとして、メイド・イン・オカヤの発信基地として、また、市内の近代化産業遺産群などへの回遊の拠点として産業観光を推進するなど、ものづくりのまちの産業振興、観光振興に貢献します。

施設ゾーニング案

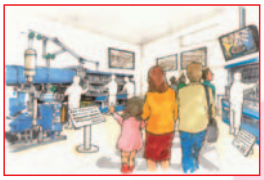
既存施設を有効に活用し、シルクやまゆの輝く白を基調に、シンプルなデザインで個性をアピール。動態展示や体験に対応する広い空間に3つのゾーンを展開します。

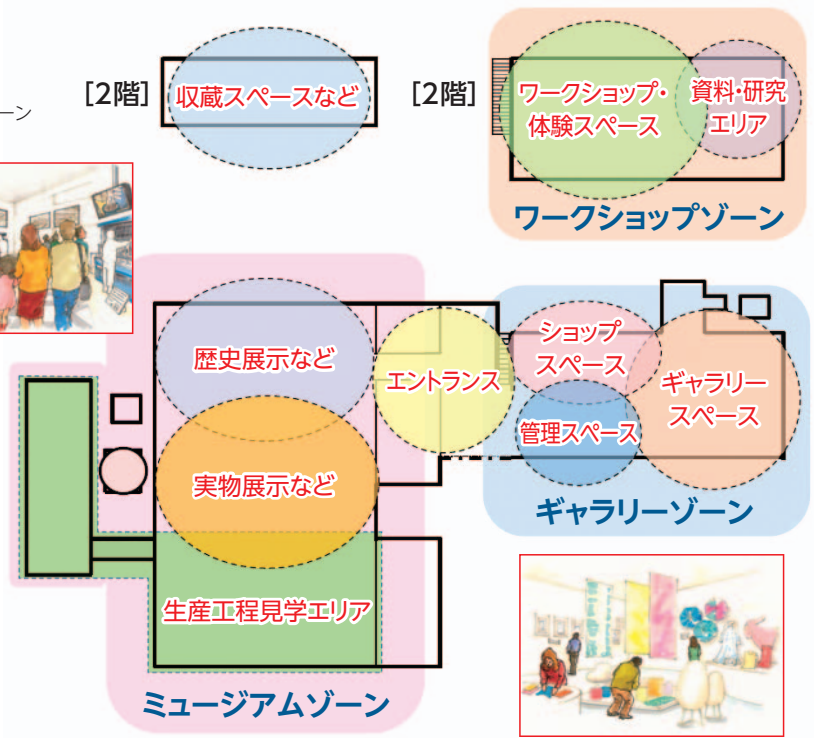
ワークショップゾーンイメージ

おりなす

既存施設の移管に留まらず、集積した機能を縦横に組み合わせることで「学ぶ」「つくる」「見る」「選ぶ」「発信する」を、さまざまなかたちで提案。蚕糸・製糸業にかかわる人材育成や、地域での養蚕への取り組みとの連携、生糸および創造性に富んだ絹製品の販路の開拓や生産拡大に寄与します。市民が岡谷の歴史に対する理解を深め、まちへの愛着や誇りを醸成するよりどころとして、また外からの来訪者に向けては、岡谷ブランド発信の役割を担って、新しい「シルクおかや」の文化を生み出していく場として活用します。

ミュージアムゾーンイメージ





ギャラリーゾーンイメージ